

会議結果

◎ 審議会等名称

かながわ高齢者保健福祉計画評価・推進委員会 令和6年度第2回計画評価部会

◎ 開催日時

令和7年2月14日（金曜日）15時～17時

◎ 開催場所

オンライン会議システム「Zoom」を利用

◎ 出席者

黒木 淳 委員【部会長】、関 ふ佐子 委員【副部会長】、鶴山 芳子 委員、郷原 達也 委員

◎ 会議経過

○ 開会

(事務局)

- ・ ただいまから、かながわ高齢者保健福祉計画評価推進委員会・令和6年度第2回計画評価部会を開催いたします。議事に入ります前に、委員の出席状況についてご報告いたします。本日、鳥居委員が議会对応のため、事前に欠席のご連絡をいただいております。
- ・ 次に、本日の傍聴者についてご報告申し上げます。本日はWEB会議ということで、傍聴を希望される方には事前に県に申込みいただいた上で、Zoomで傍聴いただくこととし、県ホームページで開催予定を案内しましたが傍聴者の申し込みはありませんでした。
- ・ なお、「審議速報」及び「会議記録」については、発言者の氏名を記載した上で公開させていただきますので、よろしくお願いたします。本日の資料につきましては、事前配布しております次第に基づき進行いたします。本日、3点の議題で、(1)、(2)が審議事項、(3)は報告事項で、全体として1時間半程度を見込んでおります。よろしくお願いたします。
それでは、会議次第に基づき議題に入ります。以後の議事進行は、黒木部会長にお願いたします。

○ 議題(1) 第8期計画（令和3～5年度）主要施策の評価（案）について

(黒木部会長)

- ・ それでは、次第に沿って進めていきます。次の議題(1)について事務局から説明願います。

(事務局)

<事務局から資料1により説明>

(黒木部会長)

- ・ ただいま事務局から第8期計画主要施策の評価の修正案が示されました。主な点はコロナの影響を見積もった上で評価するものについては特に補足説明で、なぜそういう評価なのかについて、記載する必要があるでしょうし、また小柱のアウトプットと中柱のアウトカムの関係性が、わかりにくいところがあるので、そこをなぜAからDに評価したのかを外部の第三者が見てもわかるように注にて追記いただいたと理解をしております。

- ・ この点、委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。

(郷原委員)

- ・ 全体的には追記していただいた内容でよいと思います。感想になりますが、例えば中柱4番の「安全安心な地域づくり」では、参考指標がB、5つある施策の中のAは2つ、Bが3つですが、「バリアフリーのまちづくりの推進」と「感染症に対する備え」がAだったので、Aにしましたというところですが、いわゆる、この2つの取組がの中では、優先順位、重要度が高かったのかと思いました。「バリアフリーのまちづくりの推進」は参考指標に直結する部分だと思いますし、「感染症に対する備え」はコロナ禍の中でいろいろ対応してきた部分がAだったのは非常に重要な要素だということ、でこの計画の意味合いには含まれているのかと思いました。結論としては良いと思いました。

(黒木部会長)

- ・ ウェイトづけをそれぞれの事業でどうするかは課題があると思いますが、コメントとしてご検討いただければと思います。

(鶴山委員)

- ・ 私も、このように追記していただいたので、説明がついて、客観的に見えてよかったですと思います。9期に向けてまた皆さんと議論できればと思っています。

(黒木部会長)

- ・ 修正案により補足説明が追記されましたので、8期評価はこれでよいのではないかと思います。重要性など、今後必要に応じて、修正が事務局でご判断いただくといいと思いますが、よろしいでしょうか。

(事務局)

- ・ 黒木委員、他の委員から、いただいたご意見はそのとおりでございます。今回、一定の考え方に基づきウェイト付けし、評価しておりますので、このとおり進めさせていただきます。

(黒木部会長)

- ・ 修正が発生した場合は私に一任いただければと思いますが皆様よろしいでしょうか。

(異議なし)

- ・ それほど大きな修正にはならないと思いますので、私の方で確認させていただければと思います。

○ **議題(2) 第9期計画(令和6～8年度)評価方法(案)について**

(黒木部会長)

- ・ それでは、次第に沿って進めていきます。次の議題(2)について事務局から説明願います。

(事務局)

<事務局から資料2-1、2-2、2-3により説明>

(黒木部会長)

- ・ 今大きく2点ご説明があったと思います。量が多いので、私も全部とらえるのが難しいのですが、1つが評価方法のところでは定量的な評価をベースにして定性的な評価をどのように含めていくかが1つあることと、もう1つは10%変更による評価の検証をしていただいたところかと思っています。

- ・ 最初に私が感じた内容を申し上げてからの委員の皆様には質問やコメントをいただければと思います。
- ・ まず1点目の定性評価をどう組めるかですが、評価の中で、活動指標やK P Iがない事業もありますので、K P Iの活動を基本にしている、定量的な評価を基本にしているものと、両方重視する、定性評価のみの量的なものは活用しないという3パターンがあってそれをどういうふうに考えていくのかということだと思います。
- ・ 基本的な考えですが、私自身、目標数値とかK P I系の専門家として申し上げると量的な調査で、K P Iとか活動目標でそれぞれの主要施策の評価が十分であるかどうかが一番の論点なのだと思います。例えば主要施策の評価が、マルチK P I活動目標を基本にした場合、その医療と介護の連携の強化が設定された指標で、基本的にはとらえられているかどうかを行えば概ねアウトカムも出るだろうと想定がある程度推察がつくかどうかというところで、そこに測定上、それだけでは難しいと委員の先生方をご判断いただく場合は定性評価も入れてフォローで指標の活用を和らげて、その場合重視するという判断になっていくのかと思います。
- ・ それが何もないという状況も、測定自体が難しい領域がありますので、そういう場合は定性評価のみを行うということも当然あり得るかと思いました。重要なのはK P I活動目標等と量的な指標だけで、施策の評価が、全般的には概ねとらえていると判断してよいかどうか、1つの論点なのかと感じております。
- ・ それから後半のA B Cのところですが、予想どおりBのものがかなりの程度Aに変わることをどのように判断していくところが、我々が考えていけない部分かと思えます。
- ・ 従来の場合には恐らくは基準が結構Bぐらいあるのかとは思っていますので、そこそこBがついていて、そうなると多分Aはよく進んでいる、Cになっていると駄目なフラグがつく感じの解釈なのかと思います。
- ・ 今回の場合はどちらかというと、Aにはほとんどアテンションが行かなくてB以下はもう少し頑張ったほうが良いというシグナルになるのかと思います。それが良いかどうかは、B以下にアテンションが集まることが県政を進める上で、そこを次の課題としてやりましょうというメッセージでいいかどうか1つの論点なのかと思っておりますので以上2点について、ぜひご検討いただければと思います。

(関副部長)

- ・ 資料2-2の最初の「1安心して元気に暮らせる社会づくり」の「1-2医療と介護の連携の強化」では、構成施策の評価で、「③定性評価のみ」と「①K P I・活動目標を基本」がミックスされており、主要施策の評価では、「①K P I・活動目標を基本」が設定されています。また、1-1-1「①地域包括支援センターの円滑な運営」の構成施策の評価では、「①K P I・活動目標を基本」が設定され、主要施策の評価では②の定性評価を「重視する」となっていますが、その評価の差についても一度ご説明いただくとありがたいです。例えば、2の「2権利擁護のしくみの充実」のところでは、構成施策の評価が全て「③定性評価のみ」となっていますが、混在した場合にどういう視点で主要施策の評価になるのかご説明をお願いします。

(事務局)

- ・ 例えば、「1-1-1地域包括支援センターの機能強化」では、研修実施により職員の

資質の向上を図ること、また地域包括支援センターの大きな役割である総合相談の部分は非常に重要ですのでこれを重視しないわけにはいかないという事務局の判断があります。

- ・ もう1つ下の「1-1-2 医療と介護の連携の強化」に向けては、例えば看護職員5人以上の訪問看護ステーション数は経営基盤がしっかりした訪問看護ステーションが増えることで在宅看取りなどが、有意に増えるというデータを医療セクションで持っていて、こういったKPIを、上のレベルへのインパクトを加味したうえで「①KPI・活動目標を基本」として設定したところですが、逆に測れないのではということであれば、定性的な評価をもっと見ていったほうが良いということになります。
- ・ また、ロジックツリーについても、これで完璧であるとは考えておらず、これまで事業としてやってきたもので数字を拾えるものは、ツリーの中に入れ込んだということですので、より適切な目標設定や中間アウトカムの設定等があるといったご意見をいただけますと次期計画の策定に際しても非常に参考になります。

(関副部長)

- ・ 例えば今ご説明のあった看護職員については、KPIとして数を示せるわかりやすさがあるので、この構成施策の「②在宅医療体制の充実」もKPIを基本とし、また「①地域における連携強化の取組の推進」では、取組の推進が数字で表しにくいので定性的に評価するという事は理解しました。そのうえで主要施策の評価で何を重視するかは、例えば、細かい項目でKPI・活動目標の方が数が多いからということなのか、そうではなく、それぞれの中身を見て、これはバランスを取るとKPIを基本にしたほうが良い、もしくは、定性的評価を重視したほうが良いということを決めたのでしょうか。例えば、「1-1-5 ケアラーへの支援」のところは、中身を見ると、KPIを基本とする方が多く、定性的評価は「①ケアラーを支えるネットワークの構築」だけですが、やはりここが重要なので、主要施策の評価としては定性的な評価を「重視する」として修正したということで、どれが何個だからというよりは、中身を見ながら施策の評価を決めたという理解でよろしいでしょうか。

(事務局)

- ・ はい、まさにそのとおりです。補足説明いただきありがとうございます。ケアラーへの支援など福祉的な施策では、定性的な評価ものが多いかと思います。KPI・活動目標の設定があったとしても、定性的な評価もきちんと反映させていきたいと考えています。
- ・ 数字が目標に直結しているもの、例えば福祉人材の確保など数字が拾えるものであれば、それはKPIを見ていけばよく、一方、権利擁護やケアラーについては定性的なものをきちんと見ていかなければいけないと考えております。
- ・ 資料2-2のところ、ここはもっと定性的なものではないかとか、逆に定性的なものではなくてこれはKPIで代表できるのではないかといった事務局(案)と異なる項目がありましたらぜひご意見いただければと思います。

(関副部長)

- ・ 我々委員は、それぞれの項目について詳しく分かっているわけではなく、現場の方々がそれぞれ行っている内容がどの評価に適しているのか、最も良くわかっていらっしゃるかと思います。
- ・ 現場の声をフィードバックしながら、これは定量的に評価しよう、これは定性的に評価しようというような、やりとりができるような関係性は作られているのか、これから作っ

ていくのでしょうか。

(事務局)

- ・ まず、評価基準を作った上で、全庁的に構成事業の評価、自己評価をしていきますので、評価の作業自体は今後になってまいります。

(関副部長)

- ・ 今ある案は事務局がそれぞれのところに打診して考えたというよりは、事務局の方で考えたということでしょうか。

(事務局)

- ・ はい、今回、KPIを基本とするであったり、定性的な評価を重視するという考え方自体は事務局が設定したものです。定性的な評価の反映方法については各課に意見を聞いても意見の集約が難しいところがあります。一方で、現場の意見も聞くことも大事ですので、委員の皆様の知見からここをもっとこうした方がいいというご意見やお気づきの点があればいただきたいと思います。

(関副部長)

- ・ 定性的な評価を入れていくことは、新しい意欲的な大切な試みです。他方で、簡単ではなく、評価基準の影響力も大きいです。この評価基準でよいのか、こちらはもっと定性的な方がよいのか、こちらはもっとKPIの方が良いのか、現場とやり取りできる余地があるといいと思います。
- ・ 細かい点ですが、主要施策の評価欄で「重視する」と記載していますが、「定性重視」のような言葉の方が、よりわかりやすいと思います。

(事務局)

- ・ そのように修正させていただきます。

(郷原委員)

- ・ 資料2-2についてですが、先ほどもいろいろお話があったとおり、難しい部分もあると思いながら見させていただいておりました。
- ・ 主に気になったところは、2ページ目の「1-3 安全安心の地域づくり」で、柱の評価としては、「①指標を基本」とする、各施策の部分については4つあるうち3つが、「定性評価を重視する」となっていました。先ほどの8期計画を振り返るときには指標よりも各施策の取組の方が、大きな評価の方に影響を与えていたかと思いますので、4本の施策のうちの定性を評価する方が、この柱における要素としては大きいと思いました。
- ・ 4ページ目で、「4-2 保健・医療・福祉の人材の養成」のところ、3つの施策がKPIを基本としているのでかなり定量的な評価ができるころではあると思います。その中で柱の評価は、「定性評価を重視する」となっていたので、なぜこうなったのかを確認しておきたいと思いました。資料2-3については特に意見はありません。

(事務局)

- ・ 1点目で資料2-2の2ページ目「1-3 安全安心な地域づくり」では、柱の評価は「指標を基本」とする、「鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、誰もが安心して移動・利用できる、人にやさしいまちになっている」に関する満足度です。こちらの「安全安心な地域づくり」ですが、高齢者保健福祉計画上で、施策記載が充実していない面があります。県民ニーズ調査を行っていて、この「安全安心な地域づくり」と、高齢者福祉の観点でも、まちがバリアフリー化して人にやさしいまちになっているということに関して

満足度の調査をおこなっており、「指標を基本」としています。それぞれの下のレベルの「地域における見守り体制の充実」に関しては、老人クラブによる友愛チームの設置数、老人クラブだけではない、それぞれの地域でお互いお隣さん同士で見守っていただくことに関しても計画上、十分な記載がありません。それぞれの地域でやっていくこととして定性的な評価を重視することとしております。

- ・ それから、主要施策レベルで見て、見守り、バリアフリー、犯罪被害、災害支援ということで非常に幅広くなっており、それぞれで個別計画があるぐらいの大きなテーマになっておりますので、ここに記載しているものを総括してというより、「安全安心な地域づくり」に関して、県民のご意見、県民ニーズ調査の満足度を基本とさせていただきました。
- ・ それから2点目、4ページ、「4-2 保健・医療・福祉の人材の養成、確保と資質の向上」ですが、ご指摘のとおりだと思います。修正させていただいてもよろしいでしょうか。事業所における介護労働実態調査の過不足の事業所の割合は、指標を基本とし、それぞれの主要施策の評価においてもKPI活動目標を基本としておりますので、柱の評価についてもそれらを加味した上で指標を基本とさせていただきたいと思います。変更させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

(異議なし)

(鶴山委員)

- ・ 定性的な評価について前回のときに、関委員からもご発言ありましてそこを入れていただいて本当によかったと思っております。
- ・ 「1-1-3 地域での支え合いの推進」も定性的な評価が大事だと思っております。定性評価を「重視する」と入れていただくといいのかと思っております。
- ・ 同じような観点ですが数で表しにくい、数だけでは評価できないというところでは2ページ目の「2-1-1 自立支援・重度化防止に向けた取組の推進」で介護予防も同じように感じますがいかがでしょうか。
- ・ 全体としてロジックツリーに係ってくるのかは分かりませんが、1回目ときの議論の中でも一番最後に黒木部会長からお話があったと思いますが、神奈川県内の特徴として、人口規模の差やこれから2040年に向けて、担い手の不足も含めて地域格差があるところを、全体の評価ということではありますが、見える化することは、評価の中なのか評価の結果を受けてどうするのかということなのかもしれませんが、横浜市と南足柄市では全く違うというところで、何かその3つぐらいに分けてということなのか、評価を受けた結果を検討するというで何かこう見える化できないのか、人口減少、格差を見ていくことができないのか思いました。
- ・ あともう1つは人口が減少していく中で、いろいろな事業の連携と、文章では出てくるのですが、ロジックツリーの中の項目で「連携の推進」といった指標を入れていくことはできないのかと思いました。
- ・ 例えば、老人クラブがいろいろなところで取り上げられていますが、前回、鳥居委員から会員数が減っているという話がありました。いろいろな自治体に関わるとやはり右肩下がりであるという実態もあるので、そこを重点に置いておくよりも、先ほどお話ありましたように、多様な主体という言葉も出てきているように、様々な組織、団体、人で広げていくことが重要かと思えます。老人クラブの取組も様々な組織と連携を進めていくことが重要で、そういった観点から、連携を重視するような項目をいくつかあげていくと今後

つながってよいと思います。

- ・ それから資料2-3は、私もあまり詳しくないのですが、考え方としては今後につなげていくという意味ではいいのではないかと考えています。

(事務局)

- ・ ご指摘の資料2-2で「1-1-3 地域での支え合いの推進」に関して、主要施策の評価の際にKPIを基本だけではないのではというご意見でいただきました。ごもっともだと思いますので、定性的なものも重視するということが評価に反映させたいと思いますが、そのように変更してもよろしいでしょうか。

(関委員)

- ・ 1点質問ですが、「1-1-3 地域での支え合いの推進」の①と②について、構成施策の評価のところは何も入っていないのはなぜですか。

(事務局)

- ・ 「①身近な地域における介護保険サービスの適切な提供」で、市町村が保険者として地域密着サービスを行うことを計画として位置付けていますが、県として具体的評価しうる取組は持ち合わせておりません。それから「②住民参加による地域での支え合い」でも地域同士で支え合いを進めていきますと計画には位置付けていますが、地域住民による見守り体制を充実しますということで、県として定量的・定性的に評価しうる事業を持っていないということがその理由です。

(関委員)

- ・ 先ほどのご意見は、①と②を受けて、より定性的に評価すべきではないのかというものでしょうか。すると、その次の「③地域で支えるための人材の育成と体制づくり」のところは人数で評価できる側面もあるかもしれませんが、地域の支え合いという意味では①②が重要です。例えば「②住民参加による地域の支え合いの推進」は、より定性的にそれがどうなっているのかを評価していくことがよいとすると、全体としては定性的な評価なのではないかと思います。
- ・ そのあとの「1-1-4 ②NPO等との協働」でも構成施策の評価が入っていないものがあり、そこは評価しなくていいのかが問題提起との関係で気になったところです。

(事務局)

- ・ このように主要事業という形で、事業番号を振っていてそれぞれの所管課ごとに1つ1つ個票があってそれぞれ自己評価をしていき、研修事業であればアウトプットが出てくる形で自己評価を行っております。今ご指摘のあった事業については、そういった個票ベースでの評価は現時点できていないのでコメント自体が入っていないということです。こちらについて、どのようにして評価するのかは今後の宿題にさせていただきたいと思いません。

(関委員)

- ・ 多分、今までは定量的評価が中心だったので、こういう形になっていますが、上位概念では定性的な評価がより必要なものの、評価できていなかったとすると、今後それをどう評価していくと良いのかがポイントだろうと思いました。

(事務局)

- ・ まさにこれがロジックツリーを作って見える化をして、そして定性的なものを反映させていって1個1個をどう重視するのか、KPIで代表されているのかということを見る

化したことによって、このように議論が深まったものと受け止めております。

(黒木部会長)

- ・ 幾つか重要なコメントがあったと思うのですが、定性・定量が書かれていない項目で見える化すると定性評価が実際必要だったり、上位概念ではどちらかという定量・定性両方重視のものが恐らくは出てくるのかと思いますので、現状は委員からご指摘いただいた点を修正いただければと思いますが、まだ初期段階のトライアルだと思いますので、そういう意味では、KPI・活動目標を基本としつつも、定性評価が入る余地のあるものは、定量・定性両方重視という意味合いだと思います。
- ・ そういう表現に変えたほうが良いと判断されるものは後でご提案いただいて修正したほうが良いのかと思いましたが、今委員からご提案いただいた分は変えていただくとして他にも事務局の方からご提案いただくというかと思えます。
- ・ それが1点と、地域間のばらつきの話はありましたので、そこは評価も含めて今後検討いただくことでいいかと思えます。
- ・ 最後のABCのところは大きなご意見がそこまでなかったかと思えます。

(事務局)

- ・ 鶴山委員からのご意見の「地域性の観点」ですが、重要なことと認識しております。高齢者保健福祉計画で、3政令市については地域ごとに1圏域、それから県央、横須賀三浦、湘南東部西部、県西地域と8つに分けております。
- ・ 横浜、川崎、相模原でも南部に関しては、今後も総人口の減少は少ないですし、高齢者人口は今後も長期的に見て増えていくので引き続き、施設なども増やしていかなければいけませんし、人材確保も進めていかなくてはいけないという数字で出ております。
- ・ 横須賀・三浦地域、県西域に関しては、すでに2025年、2030年で高齢者人口頭打ちになっておりますので、今後は、施設の長寿命化であったり既存施設の機能転換をしていかなければいけないと国からも考え方を示されており、施設を県西域に今後も作っていても、人がいないということは、施設の代表の方からと言われておりますし、施設作っても働く人がいなければ意味ないというご意見いただいておりますので、圏域ごとに計画の本体の方に落とし込んでいくことを考えておりますので、そちらについても改めてご相談させていただきたいと思えます。
- ・ 施設の体制整備のハードの部分と、高齢者人口の増減の具合、それに伴う介護従事者の考え方についても、見える化していきたいと考えております。

(黒木部会長)

- ・ 今回の委員の方々の意見を踏まえて修正をいただいて、修正内容の確認について私にご一任いただいてもよろしいでしょうか。おそらく重視するところなどの変更をもう少し訂正含めた方がよいものについては訂正含めていく流れで、最初のトライアルなので、あまりに定量に寄りすぎないでバランスをとることになると思えます。よろしいでしょうか。

(異議なし)

- ・ ありがとうございます。ではその方向性で事務局方よろしく申し上げます。

○ **報告事項 第8期計画（令和3～5年度）介護保険事業の実績について**

(黒木部会長)

- ・ それでは、最後の報告事項について、事務局より報告願います。

(事務局)

<事務局から資料3-2により説明>

(黒木部会長)

- ・ コロナ前の数値との比較について上げていただきたいをお願いをさせていただきました。従来の傾向として続いたものが連続しているのかどうかを今日資料でお出しただいて修正されているところは修正されていると理解をしました。
- ・ 実績状況のご説明ですので、実績については特段、ご提示いただいたもので問題ないのかと私は思いますが、委員の先生方こちらはいかがでしょうか。

(意見なし)

- ・ 以上で、今日の議題、報告事項終了となりますが、最後に全体通して何か質問、ご意見ございますか。

(意見なし)

- ・ 特段なければ、本日の議題以上とさせていただきます。進行を事務局の方にお返しいたします。

○ 閉会

(事務局)

- ・ 黒木部会長、ありがとうございました。また、委員の皆様、活発な御議論をいただき、ありがとうございました。本日、委員の皆様方からいただいた御意見等を踏まえ、整理したうえで、3月24日(月)開催予定の当部会の親会に当たります、「かながわ高齢者保健福祉計画評価推進委員会」にお諮りさせていただきます。なお、冒頭にも申し上げましたが、本日の会議記録は公開となりますので、後日、事務局で会議記録案を作成し、皆様に御確認をお願いいたしますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。
- ・ 最後になりましたが、高齢福祉課長の長澤から、一言、ご挨拶申し上げます。

<高齢福祉課長あいさつ>

- ・ 今日活発なご意見ありがとうございました。資料2については今回9期の計画の話になっています。8期の計画で今回、議題1のところでご評価いただいて、その中で前回のところでもご意見いただきましたが、Bが多いのになぜA評価なのかが、実は8期の計画では整理がされていないまま、事務局が定性的に評価をしたところで、ご報告をさせていただいておりました。今回9期につきましては委員の皆様からあらかじめ見ながら評価をすべきというご意見いただきたくて、議題2のところ整理をさせていただきました。今回いただきましたご意見を踏まえましてちょっとまた改めて資料2の9期の評価については、部会長中心にご意見いただきながら整理をさせていただきます。
- ・ 空白の部分が多くどう評価するのかは、正直、事務局の方も辛かっただろうと思っています。これについては、実際に県として計画上には位置付けてきちんと評価をしていかななくてはいけないところはあるのですが、実際に先ほど事務局からお話をさせていただいたとおり事務局として実際取組や施策としてないので、県として評価がしづらいところかと思えます。ただ、いろいろなご意見いただいていく中で、例えば県として、評価をしていく中でこんな取組をやっていくべきではないかというところがもしあれば、評価の中でいただければ、県として、そういったところを取組として盛り込んでいくことも可能かと思えます。
- ・ そうなれば定性・定量的な評価もできるかと思えますので、単純に評価だけで終わるの

ではなく、次の施策につながるとお思いますので、引き続き、活発なご意見などをいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

- それでは、以上をもちまして、かながわ高齢者保健福祉計画評価・推進委員会 令和6年度第2回計画評価部会を終了いたします。本日は、御多忙のところ御出席いただき誠にありがとうございました。

以上